

カキ「太秋」の平棚栽培による早期収量確保

果樹部

1 背景、目的

カキ「太秋」は同一樹内に雌花と雄花を着生する品種ですが、樹勢が低下すると雄花数が増加し、雌花数が減少して収量が不安定になります。

一方、平棚栽培は結果母枝が確保しやすく、着らいが安定するため収量が増加します。さらに、果実肥大や着色が促進されるとともに、糖度も上昇するなど高品質果実の生産が可能です。

そこで、「太秋」を平棚栽培した場合の、結果母枝や雌花、収量の早期安定確保と果実品質向上に及ぼす効果について明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 1 樹当たりの結果母枝数や新梢数は、平棚仕立てに移行してから 5 年間、安定して立ち木栽培より多い傾向にあります。
- 2) 1 樹当たりの雌花数は平棚栽培で早期に増加しますが、年次を経ると立ち木栽培との差が小さくなります (図 1)。
- 3) 1 樹当たりの収量は、平棚栽培で立ち木栽培に比べて増加する傾向となり、平棚仕立てに移行してから 4 年間の累積収量は顕著に多くなります (図 2)。
- 4) 果実品質 (果皮色、糖度) は仕立て法による顕著な差はありませんが、年次により果実重が平棚栽培で重くなります (表 1)。

3 主要なデータなど

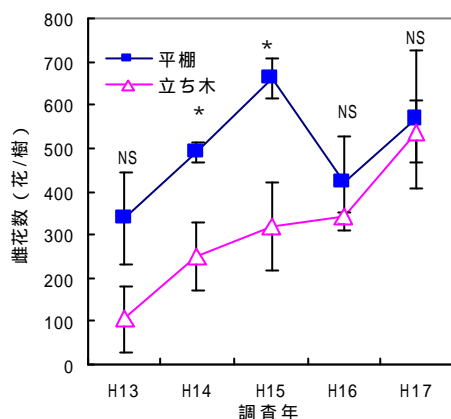


図1 仕立て法の違いと1樹当たりの雌花数

注) t検定により、*は5%水準で有意差あり、NSは有意差なし。

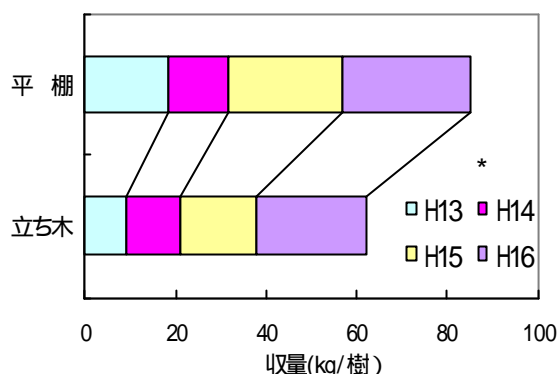


図2 仕立て法の違いと収量

注) 1. 有意性はH13~16の累積収量を示す。
2. t検定により、*は5%水準で有意差あり。

表1 仕立て法の違いと果実品質

仕立て法	果実重 (g)				果皮色 (赤道部)				糖度 (Brix)			
	H13	H14	H15	H16	H13	H14	H15	H16	H13	H14	H15	H16
平棚	393	392	457	440	4.6	4.2	4.4	4.4	17.3	18.7	17.1	16.2
立ち木	399	361	418	441	4.5	4.1	4.3	4.3	17.3	18.1	17.0	15.9
t検定	NS	*	*	NS	NS	NS	NS	*	NS	NS	NS	NS

注) 1. 10月下旬から11月上旬に収穫調査。果皮色は果実カラーチャート値。
2. t検定により、*は5%水準で有意差あり、NSは有意差なし。



写真1 カキ「太秋」の平棚栽培